

公募委員による「路線を維持するためのコストに対する考え」 一覧表

委員	A委員	B委員	C委員	D委員
意見内容	<p>最寄りの駅とオアシス等遠隔公共施設との間には、最小限の公的施設のみ数に限定して最短距離及び最少時間での往復ピストン運行することとすれば、運行回数は増え、それに伴い、利用客が増えるので、コスト的には一律100円の単一料金で採算が合うのではないかと考えられる。</p>	<p>単に出費を抑えるという考え方一辺倒ではなく、必要な金額をより多くの利用者に移動サービスの提供という形で還元できるかということになると考えられる。</p>	<p>運行距離を短くして、電車やバスやタクシーなどの他の輸送機関と補完し合って、ピストン輸送式にすると人件費も削減出来るのではないかと考えられる。</p>	<p>特別乗車証の見直しを行うべきかと考えられる。具体的には、70歳以上の100円、80歳以上無料を喜寿以上100円、米寿以上無料とする見直しが必要かと考えられる。実施時期については、5年計画で順次実施していくことを提案する。</p>

(公募委員選考の際に提出された小論文から部分的に抜粋)